

〔類聚名義抄〕六 矧 俗イカリ 矧 掛石、イカリ 矧 イカリ 〔同八〕矧 イカリツツナ

〔伊呂波字類抄〕雜物 矧 イカリ、亦作矧、海中岩、駐舟曰矧 沉石 同 矧 イカリツツナ、亦作矧

〔饅頭屋本節用集〕財寶 沉石 舟 矧 同

〔名物六帖〕舟器 矧 財二 矧 正字通、眉韶切、音苗、焦、俗書刊誤云、船上鐵矧曰矧、或曰矧、四角又見

訓蒙字會 矧、漢人 鐵矧 會典、鐵 矧 首、談 鐵矧兒 音 看家矧 ○天工開物 矧爪 トモイカリ共 矧 木

亦曰鐵矧、亦作矧、矧、鐵矧會典、鐵矧首、談、鐵矧兒、音、看家矧、○天工開物、矧爪、矧、木

〔東雅器用〕矧、筏 ○中 イカリ は、萬葉集に、重の字、または重石の字を用ひて、イカリと讀みけり、古語に、重き事をイカといひき、日本紀に、重讀てイカシといふがごとき此也、イカリとは、なほ權錘

をヲモリといふ事のごとくなる也、〔倭訓栞〕前編三 いかり 倭名鈔に、矧を訓せり、万葉集に、重石と書り、その義にや、古へは和漢とも

に石を用ゐたる成べし、鐵矧木矧などは、後世の事にや、よて矧字を造れる事、中山傳信錄に見え、三才圖會に、北洋可施鐵矧、南洋水深、惟可下木矧、と見えたり、天工開物には、矧には、作る、

〔和漢船用集〕用具 矧 今石を用る者、木矧と云、まがれる枝の木を以て、一角又を作り、是に石をくくり付て矧とするなり、左右に角又有を、唐人矧と呼、○中

鐵矧 ○中 鐵矧略

看家矧 天工開物曰、凡鐵矧所以沈水繫舟、一糧船、計用五六矧、最雄者、曰看家矧、重五百斤内外、其餘頭用二枝、梢用二枝、と見へたり、

本邦千石積の舟に用る處、鐵矧八頭、其一番矧と云者、重八拾貫目餘也、是則五百斤に當れり、其大船に至ては、重百貫目餘におよべり、

〔天工開物〕中 鐵矧